

新名神高速道路 箕面トンネル東工事で現場見学・研修会

平成25年10月25～26日に、台風26号の接近で危ぶまれたなか、大阪府茨木市の新名神高速道路箕面トンネル東工事で44名参加し開催されました。

1. 工事概要

工事名:新名神高速道路 箕面トンネル東工事
トンネル延長:上り2,081m 下り2,087m
発注者:西日本高速道路株式会社
元請:大成建設(株) 施工:吉岡建設(株)



箕面トンネルは全長約5000mで2工区に分かれており、今回の見学・研修現場はその東側工区です。特長は坑口部約300mが箕面断層帯の不良地山で機械掘削を行い、その後は発破掘削を行っています。掘削ズリ出しはベルトコンベアで行われています。

また、勝尾寺川周辺で土被りが小さく、高透水性の断層が密集していることから、周辺の水環境を保全する目的でウォータータイト構造が採用されています。大量湧水の可能性があるため、切羽前方の水理地質情報を得るために穿孔方向を制御しながら高速で1000m程度を穿孔できる超長尺先進ボーリングを採用しています。

2. 現場見学・研修



《三隅宏明所長》

大成建設(株)の三隅宏明所長より工事概要や施工のポイントや安全対策等の説明を受け、その後、上り線、下り線の坑内を見学しました。

三隅所長の現場運営方針は、「安全はきれいで挨拶のある現場から」と「切羽で新聞が読め、革靴で入れるトンネル」だそうで、坑内路盤は良く整備され革靴で見学させて頂きました。また、坑内資材置場も工夫されており、非常にきれいで、切羽も明るい現場でした。吹付コンクリート面もH鋼表面に合わされており施工管理が良くなされておりました。

安全面では、「安全の見える化」に努めておられ、坑外でのクレーン作業では、風速が10m/secを越えたら5分間赤色パトライトが点灯し、作業中止としているとのことでした。

昨年の猛暑の夏における熱中症対策としては、現場事務所屋根へのスプリンクラーの設置や冷水(スポーツドリンク)やアイスキャディーを自由に食べられるコーナーを設置されたそうです。換気設備は、送気吸引捕集方式を採用し、粉じん対策にも気を配られておりました。このように三隅所長の元、元請、専門工事業者が一体となり、いたる所に創意工夫がなされた現場でした。

野崎会長より「長大トンネルを2本同時に施工している現場で、約600m×2本のウォータータイト区間があるなど、今話題になっているトンネル現場です。また、革靴で坑内を見学するのは初めてで、本当に手本になる現場だと思います」との挨拶がありました。

3. 研修会



宿泊所会議室にて吉岡建設(株)温水一彦所長より工事説明があり、その後施工法、歩掛り等について質疑応答や意見交換が行われました。当現場は上り線、下り線を同時に施工しており、作業員の配置工夫やベルトコンベアの延伸方法、クラッシャーの設置位置、湧水対策、吹付コンクリート施工法等、多岐にわたる質疑応答が活発に行われ有意義な研修となりました。

